

平成27年2月26日作成

平成27年3月12日修正

第13期 男女共同参画学協会連絡会 第1回運営委員会議事録

日時：平成27年1月14日（水）15：30～17：30

場所：東京大学 本郷キャンパス 理学部2号館 講堂

出席者：

正式加盟学協会／（39学協会・64名）

藤岡恵子、宮崎あかね、野村幹弘（化学工学会）、佐藤絵理子（高分子学会）、森義仁、林ゆう子（日本化学会）、西村いくこ、田中寛、小松節子、篠村知子、野口航、華岡光正、山崎真巳（日本植物生理学会）、高市典子、平田典子、芥川和雄、（日本数学会）、渡辺恵子、村田律子（日本生化学会）、坂田剛、木下晃彦（日本生態学会）、有坂文雄、原田慶恵（日本生物物理学会）、北尾彰朗⁽⁺⁾（日本蛋白質科学会）、窪川かおる^(*)、小柴和子、箕浦高子（日本動物学会）、吉田薫（日本発生生物学会）、窪川かおる^(*)（日本比較内分泌学会）、フラナガンジョン（日本物理学会）、小野弥子、中川真一、山口恵子（日本分子生物学会）、竹中千里（日本森林学会）、木戸ゆかり（地球電磁気・地球惑星圏学会）、橋本香保子（日本バイオイメージング学会）、川浦香奈子、早野由里子（日本育種学会）、奥部真樹（日本結晶学会）、小口千明、原田尚美（日本地球惑星科学連合）、尾畑やよい（日本繁殖生物学会）、堀頭子（錯体化学会）、榊原恵子（日本進化学会）、篠原美紀（日本遺伝学会）、中島明子（日本建築学会）、植田富貴子（日本獣医学会）、大橋徳子（日本質量分析学会）、片山英里（日本魚類学会）、窪川かおる^(*)（日本水産学会）、恒次祐子（日本木材学会）、岩熊まき（日本技術士会）、戸部博、永田典子、植村知博、角川洋子、近藤由華（日本植物学会）、伊東明子（園芸学会）、合谷祥、裏出令子、越阪部奈緒美（日本農芸化学会）、今城純子（日本解剖学会）、馬場広子（日本神経化学会）、大矢純子、千安由紀子（計測自動制御学会）、萩裕美子（日本体力医学会）、今井桂子（日本応用数理学会）

^(*) 複数学協会兼任

オブザーバー加盟学協会／（5学協会・6名）

熊野直子（地盤工学会）、北尾彰朗⁽⁺⁾（日本バイオインフォマティクス学会）、藤ノ木政勝、本田郁子（日本細胞生物学会）、小川賀代、苅米義弘（応用物理学会）、福西祐（日本流体力学会）

⁽⁺⁾ 正式学協会と兼任

委任状：正式加盟学協会（8学協会）

日本女性科学者の会、日本生理学会、日本神経科学学会、日本糖質学会、種生物学会、日本畜産学会、日本魚病学会、「野生生物と社会」学会

新規正式加盟学協会（後ほど承認）／（1学協会・1名）

苅田香苗（日本衛生学会）

新規オブザーバー加盟学協会（後ほど承認）／（1学協会・1名）

江尻晶（プラズマ・核融合学会）

男女共同参画学協会連絡会規約 5.2「運営委員会は、委員長が招集し、正式加盟学協会の3分の2の出席（委任状を含む）を以って成立する。」より、正式加盟学協会52の2/3である35学協会を超える39学協会の出席および8学協会の委任状提出を受け、定足数を満たしているため、本運営委員会は成立する。

開会に先立ち、西村いくこ委員長から以下の挨拶があった。

13期の委員長を務めさせていただきます京都大学の西村と申します。皆さん、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。男女共同参画学協会連絡会が発足して13年になりますが、その間に多くの諸先輩方のご苦勞があったからこそ、今日の多様な男女共同参画活動があると思います。13期のスタートに当たって先ず、諸先輩の方々に敬意を表したいと思います。同時に、私の個人的な考え方ではありますが、この会の使命が、女性研究者の研究環境をよくすること、そして若い研究者たちを育成していくことにあるということを再確認しておきたいと思います。皆様の積極的なご協力をよろしく申し上げます。

また、第13期事務局の本日のメンバーの紹介があった。戸部氏（副委員長）、戸部氏（副委員長）、永田氏（副委員長）、田中氏（副委員長・シンポジウム担当）、小松氏、篠村氏、野口氏、華岡氏、山崎氏、植村氏、角川氏、近藤氏

議事

I 確認事項

1. 第12期 第4回 運営委員 1月14日（水）議事録が承認された。（資料配布）

II 報告事項

1. 第12期活動報告（資料配布）

平田第12期委員長より、以下のような説明があった。

第12期活動に関しては第12期第4回運営委員会および10月4日のシンポジウムで既に報告しているので、簡単に説明する。まず、要望書の提出について、要望書の内容はホームページで閲覧可能（<http://www.djrenrakukai.org/request/index.html>）。65箇所を郵送または対面にて提出。次に、第三回大規模アンケート解析報告書の英訳。ホームページからダウンロード可能（<http://www.djrenrakukai.org/english.html>）。

さらに、アンケートデータベース提供に関するガイドライン改訂のための議論を行い、最終案がリエゾンメールにて10月31日に承認された。新しいガイドラインを11月1日付でホームページ（<http://www.djrenrakukai.org/bylaw.html>）にアップしている。第3回までのアンケートデータベースに関しては、その時点のガイドラインを適用する。今までのアンケートのガイドラインでは、連絡会自身での解析は可能だが、加盟学会が申請して生データを借用し解析する場合でも、解析可能なのは当該学会自身のデータのみであり、学会分野間の横断解析などのより深い解析が可能ではなかった。新しいガイドラインでは、男女共同参画に資する解析を可能にするため、外部の団体が利用する可能性を考え、第4回以降の新しいアンケートに関しては個人が特定できないように生データを厳重に加工した上で、無制限に貸し出すのではなく、申請があった場合はその都度審議した上で、データの利用が可能になるようにした。

2015年10月4日の男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの報告は後述のようにシンポジウム報告集を作成した。また、大阪府立大学「第9回女子中高生のための関西科学塾」の開催に協力し、3件を協賛し、16件を後援した。共催した企画はなかった。

また、研究者の育児休業に関する課題について、大坪久子先生（日本遺伝学会）より2014年6月24日運営委員会終了後に「2014 要望活動・ワークライフバランス発展編～育児休業と同居支援～」というご講演を頂き、勉強会として開催した。

新規加盟学協会を正式加盟学協会として3学協会、オブザーバー学協会として4学協会、承認した。

2. シンポジウム報告集（資料回覧）

シンポジウム報告集は <http://www.djrenrakukai.org/symposium1.html> からダウンロードが可能。平田第 12 期委員長より、以下のような説明があった。約 220 名の参加者があり、多くの議論が交わされた。板東久美子先生（消費者庁長官・前文部科学審議官）が基調講演を行った後に、パネルディスカッションを行った。午前中の分科会 A と分科会 B はそれぞれ女性技術者の働き方と同居支援の観点から議論が交わされ、会場の収容人数を超えるほどの参加者があり盛況であった。今後も将来にわたって議論を続けていき、女性科学者と女性技術者の環境を改善していけるようご協力いただきたい。

3. アンケートデータ利用報告

永田副委員長から 3 件の利用報告があったことと、今回は利用申請がなかったことが報告された。以下はそれぞれの学協会からの報告。

1. 日本園芸学会の伊東氏から連絡会シンポジウムポスターに使用し、園芸学会でも発表を予定していることが報告された。
2. 日本材木学会の恒次氏から連絡会シンポジウムポスターに使用したとダイバーシティ推進委員会を中心として解析していることが報告された。（当該ポスターは PDF 資料として配布。）
3. アンケートデータは第 3 回日本分子生物学会男女共同参画実態調査報告書に使用したことは、5. 加盟学協会の活動報告とともに報告された。（後述）

4. 後援・協賛の申請・報告

申請

永田副委員長から第 12 期事務局で承認済みの協賛・後援依頼について説明された。（3 件すべてについて PDF 資料を配布。）

- ・2014 年 12 月 23 日に開催された高専女子フォーラム in 関西を後援。
- ・東京医科歯科大学において 2014 年 12 月 23 日に開催された「地域とつながって研究者の研究力を育てよう～活かしてみよう、あなたのこれまでのキャリア～」を後援。
- ・2014 年 11 月 1 日に開催された平成 26 年度年会・男女共同参画推進セミナー（日本結晶学会）を後援。開催報告は後述。

また、第 13 期事務局で承認した協賛依頼 1 件について説明がされた。（PDF 資料配布）

- ・2015 年 9 月 16 日～18 日に日本セラミックス協会第 28 回秋季シンポジウムにおいて開催される特定セッション「男女共同参画推進の特別セッション」を共催する。また、申請元としては学協会内で統一感を出すなどの事情があることから、連絡会としては「協賛」と「後援」を特に区別することなく、「協賛」と「後援」の区別については、申請元の申し出のまま認めるということが確認された。

報告

- ・永田副委員長より連絡会后援による平成 26 年度高専女子フォーラム in 東海北陸が 2014 年 8 月 25 日に開催されたことが報告された。（資料回覧）
- ・大矢氏より 2014 年 9 月 9 日に計測自動制御学会「プレゼン塾」が連絡会の協賛で開催されたことが報告された。企業関係者や大学、学生を対象として女性の活躍も紹介されたとのこと。
- ・窪川氏より 2014 年 9 月 11 日に日本動物学会第 85 回大会・第 14 回男女共同参画懇談会をランチオン企画として、「動物学会会員の多様なワークライフバランスの実現を目指して -動物学者の生き方を本音で語り合おう！」をテーマに開催されたことが報告された。内容としては、第 3 回の大規模アンケートを解析する過程で見えてきた問題点についてグループディスカッションを行い、動物学会の特色としては 20 代の女性からの回答が多かったことや、キャリアパス・ワークライフバランス・男女共同参画・ポジティブアクションについて話し合われた。懇談会の報告書は近日中に日本動物学会の

ホームページ上で閲覧可能になる予定。

- ・奥部氏から 2014 年 11 月 1 日に日本結晶学会「年会・男女共同参画推進セミナー」が連絡会の後援で開催されたことが報告された。テーマはイクボスで、イクボスとは部下のワークライフバランスや人生を応援しながら組織の業績や結果を出すこともでき、なおかつ自らの仕事と私生活をエンジョイして上司・経営者・管理職のこと。NPO 法人ファザリング・ジャパンの理事・川島高之先生による「自分も部下も、Hybrid な人生」～イクボスで、同僚も家族も笑顔に～というタイトルの講演がされたとのこと。
- ・東京医科歯科大学において 2014 年 12 月 23 日に「地域とつながって研究者の研究力を育てよう～活かしてみよう、あなたのこれまでのキャリア～」が連絡会の後援で開催された。(資料回覧)

5. 加盟学協会の活動報告

- ・日本分子生物学会の小野氏から、アンケートデータベース利用と文部科学省宛の要望書提出について報告があった。アンケートデータベースは『第 3 回日本分子生物学会男女共同参画実態調査報告書』に使用した(資料回覧)。また、同報告書の内容をふまえて『男女共同参画のさらなる推進を目指して～女性研究者リーダーシップ養成と充実したライフイベント環境整備に関する要望～』をまとめ、文部科学省へ提出した(PDF 資料配布)。報告書と要望書の内容はホームページで閲覧可能。

報告書 http://www.mbsj.jp/gender_eq/doc/enq2012_mbsj_rep.pdf

要望書 http://www.mbsj.jp/gender_eq/20141202youbou.html

6. 「女子中高生のための関西科学塾」

京都大学の原田氏から、大阪府立大学、神戸大学、京都大学、大阪大学、奈良女子大学のメンバーで開催される女子高生のための関西科学塾のイベントの報告がされた。年 6 回イベントをやっている、5 回は日帰り、1 回は泊り込みで実験、発表、進路指導、講演会のイベントをやるが、今年度の 6 回目は 3 月 14 日から 15 日までを予定している、イベントで配るための記念のグッズ提供のお願いと、特定の大学のグッズよりは企業もしくは学協会のもを募集中していることが説明され、既に提供された分のグッズについて感謝の意が述べられた。

7. 第 14 期以降の幹事学会について

第 14 期幹事学会を日本生化学会とすることを第 12 期第 1 回運営委員会で承認済。委員長予定者は北海道大学の有賀早苗氏。第 15 期幹事学会は日本化学工学会とすることを審議の上、本日決定する。第 16 期幹事学会については第 12 期事務局が交渉中。第 13 期事務局でも第 16 期以降の幹事学会候補を募集中。

8. その他

日本化学会の森氏から、女子中高生理系選択支援WGとして以下の報告があった。リエゾンメールにて同じ内容を改めて案内すること。

女子中高生理系選択支援WGは国立女性教育会館主催、J S T 委託事業の、女子中高生夏の学校の実行委員会に参加することを活動としております。委員会の年度最終回と次年度初回は同時開催です。今回は、2014 年度最終回および 2015 年度初回となり、2015 年 1 月 2 1 日水曜日お茶の水女子大学理学部 1 号館 4 1 5 号室 1 8 時より開催します。2014 年度夏学の報告と、2015 年度 J S T への申請案検討が議題となります。みなさまのご参加をお待ちしております。

Ⅲ. 審議事項

1. 第 15 期幹事学会の承認

- ・第 15 期幹事学会を化学工学会とすることが拍手で承認された。藤岡氏からの化学工学会の紹介と挨拶があった。化学工学会は、会員約 8000 人の中規模の学会で、そのうち正会員の女性比率約 5%。工学系の中では比較的高く、個人会員の 50 数%が企業の研究者や技術者であり、科学産業を中心とした産業界と深く連携しているところが特徴。2002 年の連絡会発足時から加盟。

2. 新規加盟

- ・永田副委員長から日本衛生学会が加盟学会としての資格を満たしていることを第 12 期事務局が加盟の規約に基づいて確認したことが説明された後、日本衛生学会の正式加盟が拍手で承認された。(PDF 資料配布) 荻田氏から学会の紹介と加盟の経緯の説明と挨拶があった。また、3 月に行われる総会において男女共同参画推進委員会が連絡会の後援によるシンポジウムを新設する予定であることも報告された。
- ・永田副委員長からプラズマ・核融合学会が加盟学会としての資格を満たしていることを第 13 期事務局が加盟の規約に基づいて確認したことが説明された後、プラズマ・核融合学会のオブザーバー加盟が拍手で承認された。(PDF 資料配布) 江尻氏から学会の紹介と挨拶があった。また、加盟の経緯として、女性会員は 3%であり、去年男女共同参画委員会を設置し活動を始めたことが説明された。

3. 第 12 期会計報告および監査報告 (会計報告の配布資料あり。監査報告はプロジェクトで映写された。)

第 12 期事務局の高市氏から報告

- ・分担金、シンポジウムの参加費、ポスター登録料、資料集掲載費、全て未納なし。
- ・2014 年 12 月 15 日澤田美智子先生、箕浦高子先生が出席し会計監査が行われた。
- ・シンポジウムの収入には・参加費 150 名分、ポスター登録料 31 件分 (加盟学協会 26 件、非加盟登録団体 5 件)、資料集掲載費 58 件、第 11 期 (第 11 期決算後の販売代金)、第 12 期の資料集販売代金などの雑収入が含まれ、計 524,744 円であった。
- ・シンポジウムの支出には 300 部分の資料集印刷費などが含まれ、計 367,631 円。会場の東大数理に協力により 7 名分のアルバイト料に関しては負担なし。託児所の利用もなし。
- ・連絡会全体の決算の収入としては、分担金 70 万円、利息 49 円、11 期動物学会からアンケート調査準備金 392,862 円、シンポジウム開催収入 524,744 円の計 1,617,655 円。
- ・連絡会全体の決算の収入としては、HP 移転費を含む Web/メーリングリスト管理費 263,184 円、会議費として配付資料代は数学会が負担し連絡会の負担はなし、WG 活動費として要望書製本の作成費 19,842 円、既に運営委員会で報告されたアンケートの英訳に関しては追加作業代金を含め 718,584 円、振込手数料などの雑費 10,330 円、シンポジウム開催費 367,631 円分以外を、アンケート調査準備金として 238,084 円を第 13 期に繰越。大規模アンケート英訳冊子はグラフ等を含み 114 ページあり、予算内で印刷できなかったため、Web 上での公開のみ。

箕浦氏から、澤田氏とともに監査を行い、問題なく適切に運営されたことが報告されたのち、拍手で承認。

4. 第 13 期活動計画および予算案 (資料配布)

- ・西村委員長から第 13 期の基本活動計画について説明された。

昨年 10 月に学術会議の 23 期の会員が決まりました。第 3 次男女共同参画基本計画では、平成 27 年の学術会議会員の女性割合 22%という目標でしたが、第 23 期のスタートでは、それを上回る 23.3%となりました。基本計画では「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも 30%程度になるように期待する」という目標に向けての取組強化がうたわれています。今後この学協会連絡会も学術会議と連携をとりながら活動を行うのが良いように思

われます。どのような形で達成できるかを副院長とともに検討中です。

- 田中副委員長からシンポジウムに関して2015年10月17日(土)に千葉大学けやき会館(西千葉キャンパス)にて開催予定であることが報告された。今後全体のテーマと分科会のテーマを企画するので意見を第13期事務局宛に募集中。
- その他の基本活動計画については永田副委員長が説明。
共催などは例年通りの予定。
活動調査として女性比率調査を行う予定。女性会員の割合だけでなく、執行部の女性比率の割合など詳細な調査を第13期後半で実施予定。
第4回の大規模アンケート実施準備に向けての新WGの設立。
西村委員長からも提案があった通り、外部関係機関への働きかけを行いたい。
- 日本化学会の森氏からの質問：女子中高生夏の学校関連の連絡は誰宛にするべきか。
永田副委員長の回答：第13期の事務局宛。
- 日本地球惑星科学連合の小口氏の質問：第12期のシンポジウムの収支があっていないことについて。
第12期平田委員長からの回答：シンポジウムでの余剰金は連絡会の全体の収入として計上。第12期のシンポジウムでは、アルバイト代が会場の好意で負担なかったことや、託児所の利用者もいなかったことから余剰金が生じた事情を考慮し、今後の予算に関しては従来どおりの計上をした方がよいのではないかと意見もあり。
- 第13期予算案
永田副委員長から、第12期は日本数学会が負担した分が多かったことから、決算ではなく第12期の予算を参考に、第13期の予算案を作成したことが説明された。会議費も40,000円計上。第12期でアンケートの英訳に係る費用として計上されたものは、第13期では第12期から繰越されたアンケートの準備金238,084円に足して、600,000円にして第14期に繰越す予算案となっている。分担金の収入は700,000円を計上。正式加盟学協会やオブザーバー加盟学協会に変動はあったが、分担金収入は変わらない予定。
田中副委員長からシンポジウムの予算案について説明があった。アルバイト料は20,000円計上、託児所の場所は確保し費用はかからないが、保育士の手配などの費用として50,000円計上。
- 第13期活動計画および予算案は拍手をもって承認された。

5. 第13期会計監事の承認

第13期会計監事を平田典子先生と小磯深幸先生(日本数学会)とすることが拍手をもって承認された。

6. 分担金の請求について(資料配布)

永田副委員長から男女共同参画学協会規約と細則、分担金リストに基づいて分担金について説明があった。

分担金の支出について見積書等の書類が必要な場合は会計担当の植物生理学会の事務局までメールかFAXで4月10日までに連絡。分担金の支払期日は5月末日。分担金は会員数によって変わるので、会員数に大きな変動がある場合は要連絡。

7. ワーキンググループについて(資料配布)

永田副委員長より、WG関係のホームページの内容変更について説明された。

研究者のワークライフバランスWGは一旦休止し、次の大規模アンケートの内容を含めて再開する予定。大規模アンケートフォローアップWGは、ガイドラインの作成などが終了したため休止。

大規模アンケート解析WGと提言・要望書WGは、次の大規模アンケートまで休止もしくは終了して改めて立ち上げ。

女子中高生理系選択支援 WG は若干の文言の修正があったが、内容変更はなし。

審議事項

- ・女性リーダー・若手育成 WG に関して

日本地球惑星学会小口氏からコア学会を日本応用物理学会から日本地球惑星学会に変更することと WG の名称変更を検討しているが、名称変更をするなら一旦終了して立ち上げなおすべきかとの審議事項の説明があった。

日本数学会平田氏から女性リーダー育成に関しては連絡会全体の方針なので、若手育成 WG に名称を変更することは特に問題ないとの意見。

拍手で承認された。

- ・学会を含むリーダーシップ活動の機会均等 WG に関して

日本分子生物学会の小野氏からコア学会を日本分子生物学会から日本遺伝学会へ変更し、参加学会を日本遺伝学会から日本分子生物学会へ変更することが報告された。また、日本遺伝学会の篠原氏から演題発表者等の属性調査への協力が呼びかけられた。研究成果発表会の時の女性比率向上のために、問題点の現状把握、問題点の洗い出し、どうやって対策を立てていくかという議論に活用するため、主に大会参加登録時にインターネットで演題発表者の性別や年齢、職階などと、発表形態、シンポジウムのオーガナイザーか座長かなどを回答してもらったアンケートを実施している。アンケート解析結果は男女共同参画のワークショップや理事会、幹事会での報告に利用することができる。賛同する学協会は日本遺伝学会か日本分子生物学会に連絡をしてほしいとのこと。属性調査例や解析結果はホームページで閲覧可能。

(http://www.mbsj.jp/gender_eq/zokusei_chosa.html)

拍手で承認された。

- ・新 WG の設立

永田副委員長から「第 4 回大規模アンケート調査のためのプレ WG」の設置する予定が報告された。参加学会募集中。拍手で承認された。ただし、コア学会や活動内容は次回の運営委員会で審議予定。

8. 第 13 期第 2 回運営委員会の予定

永田副委員長より次回の運営委員会の予定が以下の通り報告された。

2015 年 4 月 27 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00

東京大学 本郷キャンパス 理学部 2 号館 講堂 (4 階)

西村委員長からの閉会挨拶

皆様、長時間にわたり貴重なご意見を頂きありがとうございました。色々な学会がそれぞれの特徴を活かして男女共同参画の活動を通して女性研究者や若い人たちにエールを送っておられることがわかりとても嬉しく思いました。私たちはこの一年間、第 13 期幹事学会を担当させていただくことになっていますが、皆様のご協力なしでは成り立たないことは言うまでもありません。今後とも積極的かつ建設的なご尽力を何卒よろしく願いいたします。ありがとうございました。